

日時:2024 年 12 月 19 日(木) 15:00~16:35

会場:横浜市青少年育成センター第 1 研修室

◆ 主 催:防災塾・だるま 総括運営:鷲山 司会:樋口

◆ 談義の会参加者: 19 名(会場 18 名、ZOOM:1 名)

話題:「楽しい防災コンテンツ」発表交流

講師 防災塾・だるま会員



鷲山塾長挨拶

これまで、会員 1 人 1 人が培ってきた「防災に関する知見」を披露して頂く機会を得た。
十分に楽しんで頂きたい。

■ 早川雅子 「楽しい防災クイズ」 持ち時間は 5 分

Q1. 土石流が流れるスピードは? (①10km/h ②40km/h ③100km/h)

Q2. もし土石流に遭遇したら? (①身をかがめ、流されないようにする

②息を止め、流れに身をまかせる ③高い所に逃げる)

Q3. 台風のエネルギー源は? (①地震 ②エタノール ③水蒸気が水になる時の熱)

Q4. 台風が進む方向のどちら側が風が強い? (①左側 ②右側 ③どちらも同じ)

Q5. マグニチュードが 1 上がると、どれぐらい地震の力が大きくなる? (①4 倍 ②16 倍 ③32 倍)

Q6. 家の中にいて地震が起きたら、危ないのですぐに外に出た方がよい(OかXか)

Q7. 津波の速さはどれくらい? (①チーターが走る速さ ②ジェット機が飛び早さ)

Q8. 地震などの災害時に必要な非常食。その非常食は、大事にとっておくもので、常にタンスの中や倉庫などに入れておくと日持ちするのでよい。(OかXか)

Q9. 浸水の高さが何センチメートルを超えると、玄関の戸が開かなくなる? (①10~20cm ②40~50cm ③100cm)

Q10. 天気予報で、低気圧は台風と違うから台風ほど心配しなくても良いと思う (OかXか)

Q11. NTT の災害用伝言ダイヤルの番号は 171 である (①YES ②110 ③119)

Q12. 消火器の粉末はどれくらいの時間。噴射できる? (①約 15 秒 ②約 1 分 ③3 分)

Q13. 天ぷらなどを揚げている時に鍋から火が上がった。どうやって消す? (①乾いたタオルをかぶせる ②鍋のふたをかぶせる ③水をゆっくり少しずつかける)

Q14. 大人 1 人に必要な水は一日 3ℓ である (①YES ②NO)

Q15. 生命線である水や食料は一日分あればよい (①YES ②2 日分 ③3 日分)

Q16. 家族が離ればなれの時に大きな地震が起きた場合、皆の安否を確認するために携帯電話で連絡する (①YES ②SNS・メールで確認)

正解 Q1②/Q2③/Q3③/Q4②/Q5③/Q 一般的にX、家の耐震性低ければ脱出で生存事例はあり/Q7②/Q8 X/Q9①/Q10 X/Q11YES/Q12①/Q13②/Q14①/Q15③/Q16②



■ 杉内蔵「命を守る安価な土砂災害警報機開発」

目的：市町村の避難指示から遅れた時の最善の避難に利用する。席に発信機（円筒形：センサー内臓）を置き、会場前方に受信機（アラーム起動装置）を置いて、実演した。

センサーが内蔵された発信機を斜めにする（斜面の変形を表す）と、信号が受信機に送られ、アラーム（警報音の鳴動）と共にランプが点灯する仕組み。

→発信機は現場（斜面）に、受信機は各家庭に置かれる。

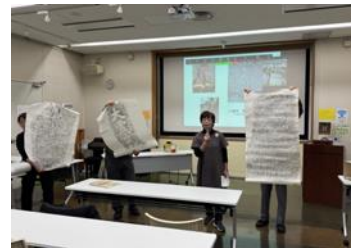
→装置（発信機）の設置には、土地所有者の了解が必要



■ 松島俊樹・星野和子「100年先まで伝えたい関東大震災 小田原の記録」

小田原（根府川）には、関東大震災を記録した史跡（映死者供養塔や道路復旧記念碑など）が残っている。これらは今後開発によって、残っていけるかどうか分からないので、石碑の拓本を取って保存する活動をしている→映像の紹介と拓本を持参して頂いた。

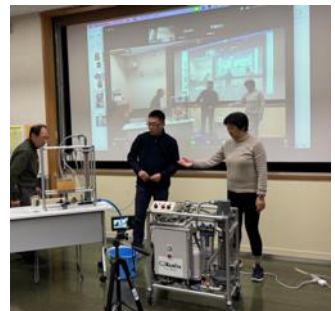
また、表題の書籍を紹介していただいた。



■ 中根圭介・栗田恵子「非常用生活用水浄化装置の機能を実演紹介」

浄水装置の原理を説明（ろ過装置に珪藻土を使用）し、目の前で汚れた水が濾過される様を実演してもらった（汚れが水圧によって円柱状のろ過器に押し付けられていく）。

能登では、1時間で1トン（給水車の約半分）の水をろ過し、3000人の人に合計100トン（プールの1/3）を提供することが出来た。ろ過水は、洗濯等の生活用水として使える（飲むことは出来ない）。



■ 樋口誠「家の外にひそむ危険と備え（災害時、あなたならどうする）」

様々な種類の災害（火災、川の逆流、橋の損傷、電車の脱線、地割れ、ブロック塀の倒壊、津波、頭上からの落下物、土砂災害、切れた電線、液状化、足下にある飛散物）をイラストで示し、どの様に対処すべきかを解説した。

（出典は はまっ子防災ガイド：横浜市防災局監修）



■ 鈴木幸一「帰宅困難者支援プログラム」の提案

以前、赤十字ボランティアとして活動していた（救急法に詳しい）。

豪雨災害の時は、足下の様子が分からなくなるので、一人で行動すると危ない。

そこで、棒（2m位）を数本用意し、それに手押し車をつなげて使えば、人を乗せて長距離を移動することが出来るし、皆が棒につかまりながら歩けば心強い。

展示スペースが広ければ、実演できるのだが。



■伊藤郁夫「実践報告：自宅マンション“耐震診断試験中”」

マンションは、1986年3月の竣工で旧耐震。IS値（構造耐震指標）を調べたところ、耐震基準の0.8より少し低かった（0.78）。集合住宅は概ね0.7以上であることとなっている。念のため、必要書類を作成して横浜市の認定機関に送り、結果（現状でOK or 耐震補強工事が必要？）を待っている。



伊藤さんのマンション防災活動については、だるまHP（第194回「防災まちづくり談義の会」レポートを参照ください）。

■片山晋「防災グッズ」の紹介（下記）



J-DAG（発災時の行動ゲーム） 防災O×ゲーム（こんな時どうする） K-ZAG（絆づくり安否確認ゲーム）：これをもとに安否確認の訓点（1時間以内で450世帯の安否確認ができる 考える防災（小冊子）
→これらのデータは、だるまのHPに掲載済みで、自由に活用できる。

■鷲山龍太郎「地震防災の科学」実験ブースキット： 長周期振動・耐震・家具固定

10月12日に横浜市防災センターで行った「防災ギャザリング」で使用したものを持参。家具固定は、家具の下に入れる耐震シート（くさび）と、突っ張り棒（壁側に設置）を併用すれば安全。その他、「子どもと家庭の防災マニュアル」を紹介。



<次回 第202回 防災まちづくり談義の会案内>

- ・日時：2025年2月22日（土）15:00～17:00
- ・会場：横浜市青少年育成センター 関内ホール 第1研修室
- ・話題：談義の会 200回を基盤とした防災の未来への提案
- ・講師：未定